

疾患別説明書： 多発外傷 (TBI-52)

船橋市立医療センター脳神経外科 (2002年7月29日作成)

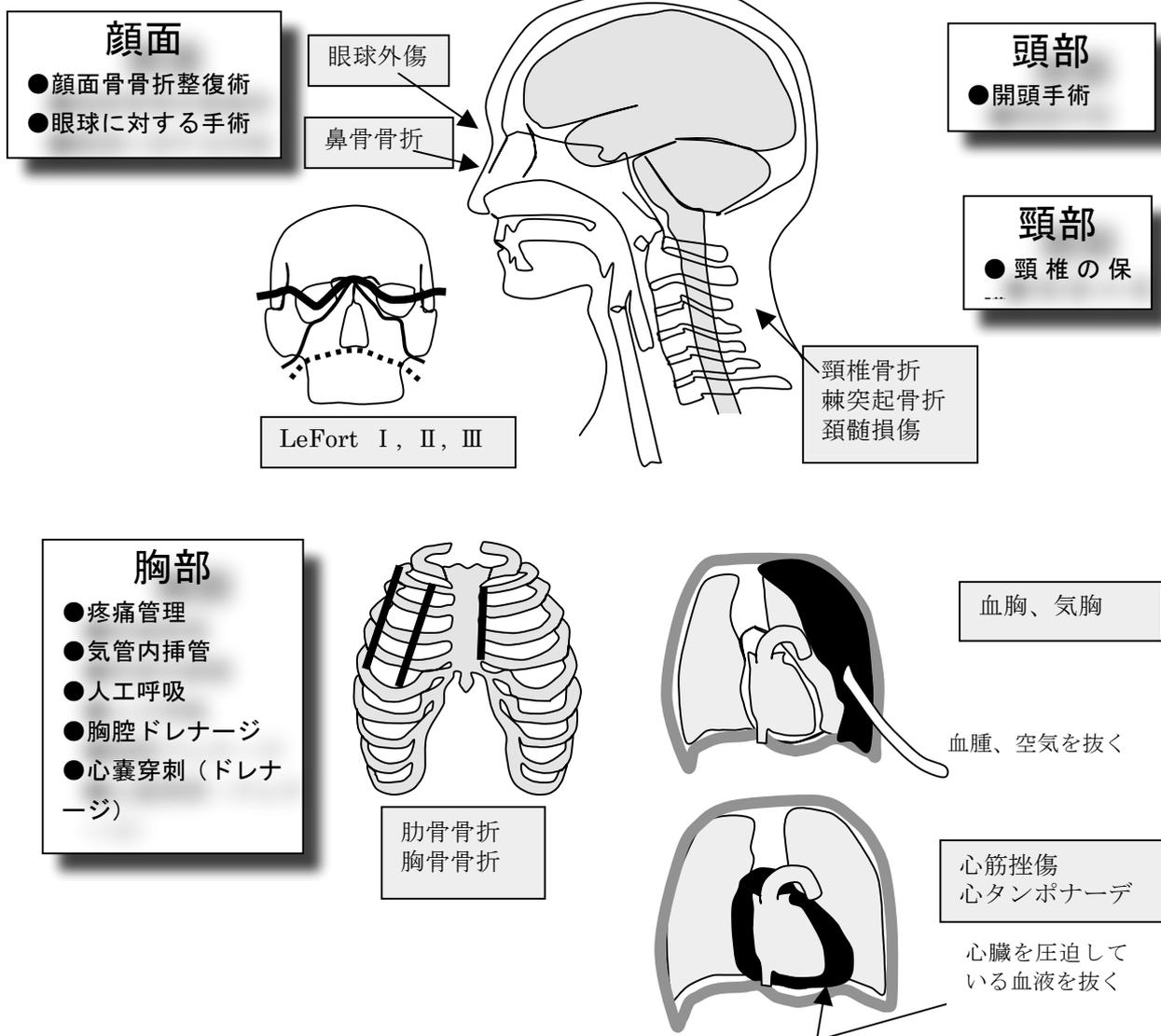
1、 多発外傷

多発外傷とは、①頭頸部、②顔面、③胸部、④腹部、④四肢・骨盤、⑤体表のうち、同時に2カ所以上に、そのまま放置すれば生命に危険が及ぶ外傷が存在する外傷である。

当院脳神経外科に入院する頭部外傷患者のうち約20%が多発外傷であった。これらの部位別の合併率を次に示す：顔面外傷1.7%、胸部外傷9.0%、腹部外傷1.0%、四肢骨折9.0%、脊椎脊髄外傷1.3%、骨盤骨折1.9%。これらの多発外傷の診断が初診時についていることもあれば、後に症状が明らかになり後日に診断されることもある。また当初は手術を要さないが、後に手術が必要になることもある。

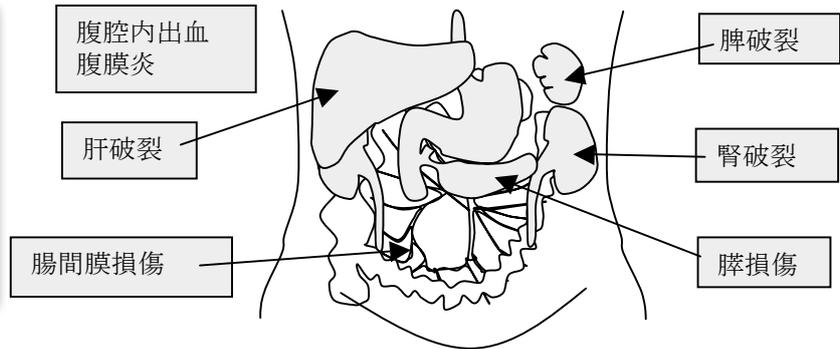
Dereper らによれば、全多発外傷患者の死亡率は28%であった。死因は頭部外傷が68%、出血性ショックが28%、多臓器不全が4%であった。多発外傷患者のうち79%が24時間以内に死亡していた。

2、多発外傷における部位別の治療



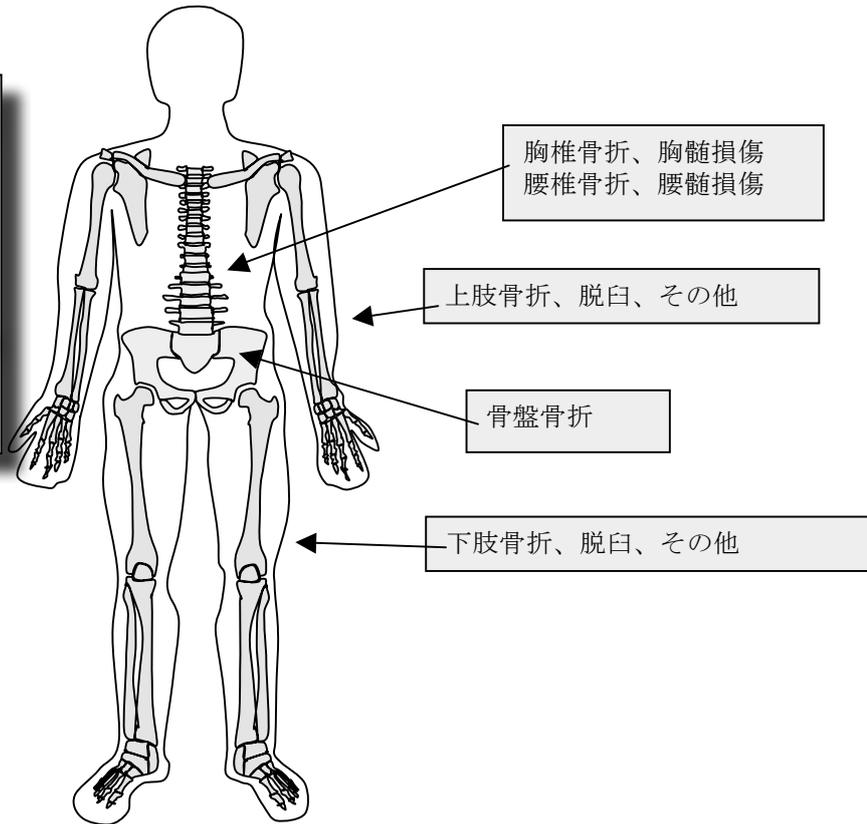
腹部

- 開腹手術
- 経カテーテル的動脈塞栓術 (TAE)
- バルーンカテーテルによる大動脈遮断



四肢・骨盤

- 安静
- 整復固定
- 牽引
- ショックパンツ
- 経カテーテル的動脈塞栓術 (TAE)



体表

- 洗浄・消毒・縫合
- その他

